

評価の方法について

評価の方法については、当該科目の「到達目標」に対する達成度を判定する方法の基準を示すことが必要のため、評価の方法を今回の Web シラバス化に併せて、種別毎に示す形に改めました。

なお、平成 29 年度シラバスの元データは、平成 28 年度版をコピーした内容となっていますので、評価の方法欄については、そのまま利用せず、次の例を参考に必ず修正してください。

(例) 修正前

【評価の方法4:種別】 定期試験	【評価の方法4:割合】
【評価の方法5:種別】 その他	【評価の方法5:割合】
【評価の方法:自由記載】 授業態度20% 小テスト15% レポート15% 定期試験50%	

自由記載欄に、評価方法の種別と割合があります。これを下のよう
に修正してください。



(例) 修正後

【評価の方法 1:種別】 授業への取り組みの姿勢／態度	【評価の方法 1:割合】 20%	【評価の方法 1:評価基準・その他備考】 意欲的な受講態度、発表・討議への参加、予・復習の状況によって評価する。
【評価の方法 2:種別】 レポート	【評価の方法 2:割合】 15%	【評価の方法 2:評価基準・その他備考】 ○○の問題においてその背景と解決策について具体的に述べていること。課題やレポートについてはコメントを記入して返却する。
【評価の方法 3:種別】 小テスト	【評価の方法 3:割合】 15%	【評価の方法 3:評価基準・その他備考】 各回の主要なポイントの理解を評価する。
【評価の方法 4:種別】 定期試験	【評価の方法 4:割合】 50%	【評価の方法 4:評価基準・その他備考】 最終的な理解度を評価する。
【評価の方法 5:種別】 その他	【評価の方法 5:割合】	【評価の方法 5:評価基準・その他備考】
【評価の方法:自由記載】 ※ココに記載されていたデータは削除してください。		

さらに、各評価の明確な基準を入力してください。

到達目標について

到達目標は、授業を履修することで得られる総合的な成果について、学生を主語として記載しますが、その内容については、学科のディプロマポリシーに掲げる学士力の4つの観点 <知識・理解>、<思考・問題解決力>、<技能>、<態度>のどの能力を修得する為に貢献するものかを必ず記載していただくように改めました。

なお、平成29年度シラバスの元データは、平成28年度版をコピーした内容となっていますので、到達目標欄については、そのまま利用せず、次の例を参考に必ず追記してください。

(例) 修正前

【到達目標】
<ul style="list-style-type: none">・食品を食品群、料理を主食・主菜・副菜に分けることができる。・栄養成分表を正確に読み、使いこなすことができる。・自分の食事を食事バランスガイドにあてはめて、サービングサイズを決定することができる。

(現代生活学部人間栄養学科の科目)

この授業は、学士力の<知識・理解>で示す「栄養に関する専門的知識を有し、技量等を統合して健康の維持増進や疾病予防・治療に応用できる。」という能力の修得に貢献するものと位置づけられるので。

現状は、学士力のどの能力を修得するために貢献するものか記載がありません。



(例) 修正後

【到達目標】
<ul style="list-style-type: none">・食品を食品群、料理を主食・主菜・副菜に分けることができる。・栄養成分表を正確に読み、使いこなすことができる。・自分の食事を食事バランスガイドにあてはめて、サービングサイズを決定することができる。 <p><u>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解>の修得に貢献する。</u></p>

追記する文

追記していただいた観点は、学科の意向により変更させていただくことがあります。ご了承ください。

授業外学習について

大学設置基準では、1単位の修得に必要な学修時間を45時間と定めています。例えば、2単位の講義授業だと、90時間となり、大学での講義時間が30時間相当のため、予習・復習等の授業外学修を60時間（1週間当たり4時間）行う必要があります。

そのためには、シラバスへ具体的な予習・復習等の指示ならびに、その学修時間を記載するなど、学生に授業時間外の学修を促す事が必要となります。

次の表は、授業形態別にみた授業時間外の学修時間算定表です。この算定表を元に、授業時間外における予習・復習等の指示を右端の欄により記載してください。

授業時間外の学修時間算定表

授業形態	週当たりの授業コマ数 (A)	単位数 (B)	学生が学ぶべき時間 [学修時間] (C) ※(B)×45	15週での授業時間 [授業での学修時間] 1コマ=2時間相当 (D) ※(A)×2×15	授業外学修時間 [予習・復習等] (E) ※(C)-(D)	週当たりの授業外学修時間 [予習・復習等] ※(E)÷15
講義	1	2	90	30	60	4
	1	1	45	30	15	1
演習	1	1	45	30	15	1
	1	2	90	30	60	4
実験・実習 及び実技	1.5	1	45	45	0	0
	1	1	45	30	15	1

(例) 講義科目2単位での記入例。

【授業外学習】

- 1 予習として、教科書のうち、授業内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにする。
- 2 復習として、課題のレポートを書く。
- 3 発展学修として、授業で紹介された参考文献を読む。

以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。